

第2回地域枠学生向け キャリア講演会 開催報告

【開催概要】

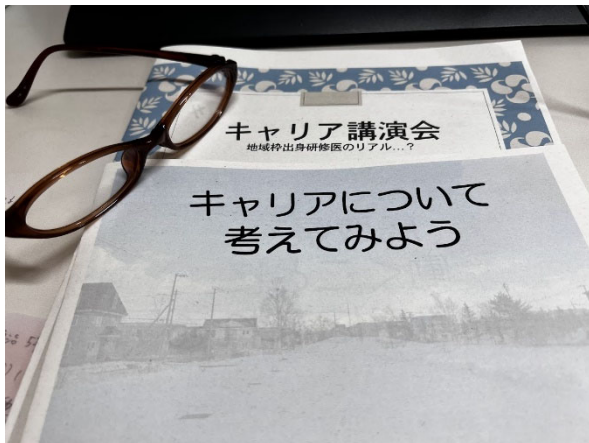
開催日時 2023年2月24日(金) 18:00-19:00

開催方式 オンライン Zoom

参加者数 80名

内 容 ①細田早郁先生のお話 ②大塚裕真先生のお話 ③質疑応答

主 催 者 鳥取県地域医療支援センター



①細田早郁先生のお話 「地域枠出身研修医のリアル...?」

(写真:細田先生の講演)



初期臨床研修病院どうやって選ぶ？

- まずは情報収集 (病院見学、ネットで調べる、人に聞くなど)
- 自分のニーズに合った病院を選ぶのが大事！だと思います
- 私の場合...

内科系に行きたい

→ 救急をしっかり診れて力がつくところ！

→ 3次救急の病院

→ 県内なら鳥取県立中央病院 or 大学病院

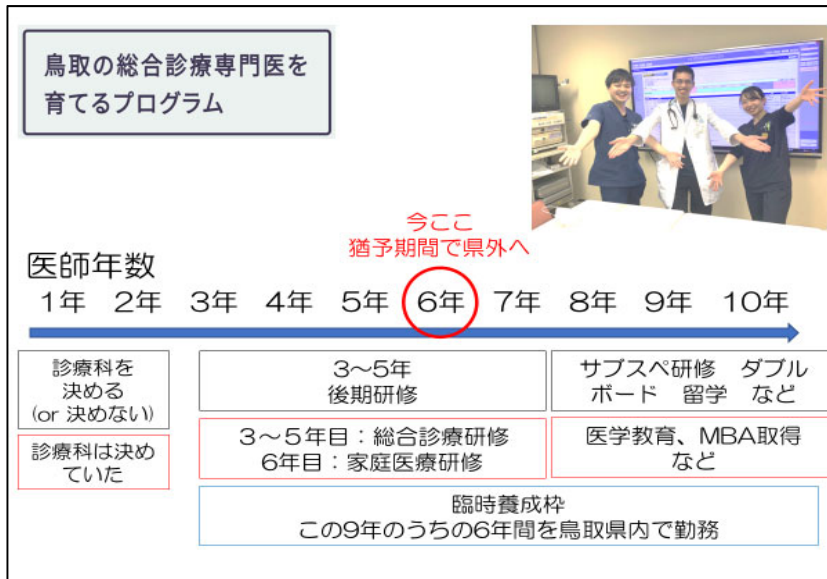
でも、**松江日赤**が気になる...！



(スライド抜粋)

②大塚裕真先生のお話 「キャリアについて考えてみよう」

(スライド抜粋)

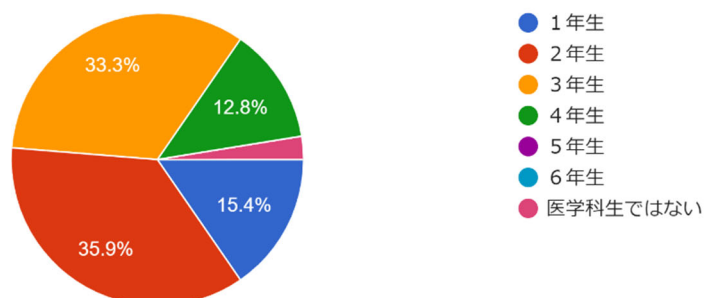


皆さんに伝えたいこと

- 医師になってからどう働きたいか、は考えておこう
特に医師になって数年した頃に何をしていたいか。
- 地域枠ということで不安を感じることはない。
上記の自分の働き方を考えながら、うまく利用しよう。
- 迷いがある時は必ず相談すること。
最初は相談しやすい人でOK
- 色んな人と関わること
今考えている通りになる＝キャリア ではない！
色んな人と繋がることで必ず道は開ける

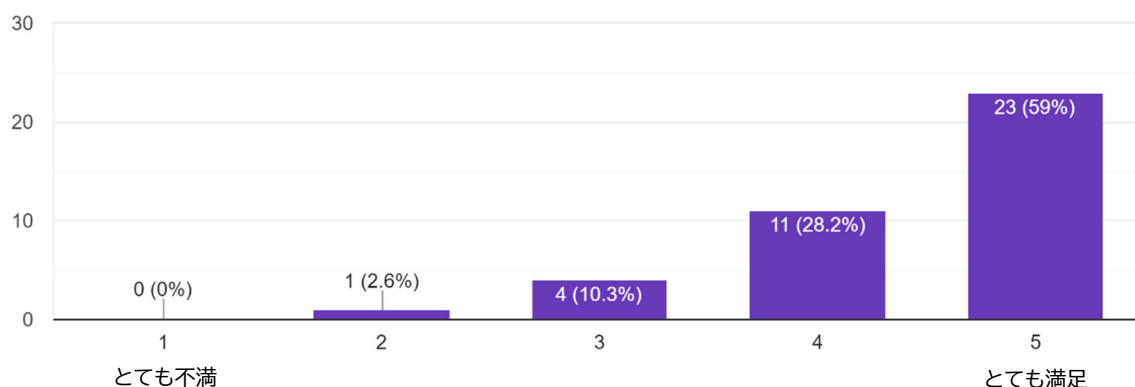
【参加者アンケート結果】 記述式回答については抜粋してご紹介します。

医学科生の方にお伺いします。何年生ですか？ (...「医学科生ではない」をチェックしてください)
39件の回答



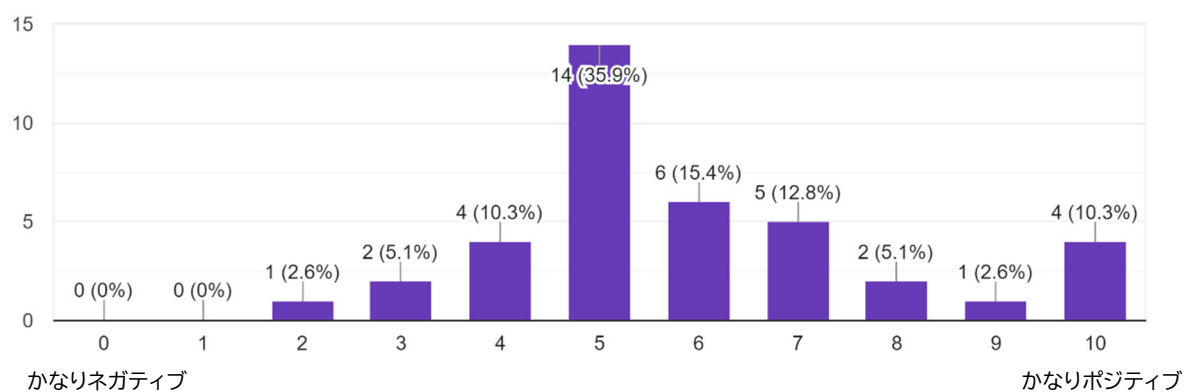
今日のキャリア講演会はいかがでしたか？

39件の回答



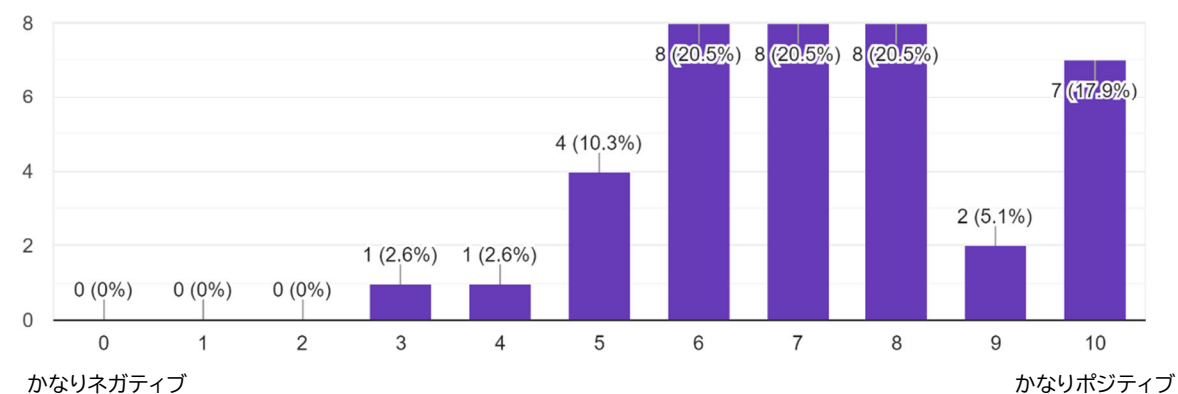
(講演会前まで) あなたのこれまでの将来キャリアについての前向き度を教えてください。

39件の回答



(講演会后) 講演会を聞いて、今のあなたの将来キャリアについての前向き度を教えてください。

39件の回答



◆ 細田早郁先生のお話で、特に印象に残ったところをできるだけ詳しく教えてください。

<臨床研修病院の選び方、たすきがけプログラム>

・初期研修先の病院の決定について、たすきがけ制度の活用の具体的な経験を教えていただけて、自分の志望や将来の目指す姿に近づくためにこういった制度も視野に入れて考えることができることに気が付き、とても印象に残りました。

- ・初期臨床研修先の病院の選び方や、たすきがけプログラムの良い点・注意点を話されており、日ごろ学生として過ごす中で、実際に地域枠から医師になった先輩の生の声として聴くことができ、本当に有意義であった。
- ・研修医2年目の方ということもあり、自分の将来の姿と照らし合わせて考えられたのが良い経験だった。初期研修先を考えられた際の過程を知ることができ今後の参考になると思った。
- ・病院による働き方の違いを聴く機会がなかったので、とても勉強になりました。
- ・大学病院と市中病院の違いを対比して下さってとても分かりやすかったです。
- ・実際に働かされている方のお話を聞くことが出来、市中病院と、大学病院の違いをしれました。
- ・たすきがけ制度のイメージ、市中病院と大学病院での様子についてイメージが広がりました。
- ・たすきがけプログラムを通して人脈の幅を増やすこと。
- ・たすきがけプログラムの存在を知ることができてよかった。
- ・たすきがけプログラムを用いる事で県外の病院にも研修に行くことができる事。

<診療科の選び方>

- ・診療科の決め手について、研修の際に自分の限界や得意不得意をしっかりと把握し、興味や対象疾患の特性、ライフプランを踏まえて考えることが大事だということが分かった。市中と大学の特徴もそれぞれ聞くことができとても参考になった。
- ・志望科を決める際に、いくつかの要素(手技、興味、雰囲気、特性、ライフプランなど)を挙げてお話していただき、大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・志望する科を選ぶ際に医局の雰囲気も参考にされていたこと。
- ・医局や専攻の決め方など経験してから時間の経っていないリアルな話が聞けてよかったです。

<進路決定のタイミング>

- ・志望科について、初期研修をしてからでも最終決定には遅くないという話をしておられたのが印象的だった。私はまだ具体的な進路を考えていないので不安が減った。
- ・学生のうちから将来のことを考えておくことも大事だけど決めすぎないことも大事だという言葉がこれからの将来に対する考え方としてとても参考になった。
- ・大学病院と市中病院で違いがあることが印象的だった。自分に合ったものを選択することが重要で、そのための情報収集は怠ってはならないと感じた。もともと志望科を決めていなかったということも印象的で、今現在特にビジョンが見えていない私もこれはこれでいいのだと思えた。
- ・早い時期に進路を決めて視野を狭めるよりは、自分のパーソナリティからざっくりと内科・外科だけを決めておいて、研修中に実際に体験して感じたことや考えたことから進む道を考えるというのもいいなと感じることができました。

<その他>

- ・働き始めの頃はわからないことだらけだったが、やっていくうちにできることが増えていくのが嬉しかったというお話が印象に残った。臨床実習で色々な先生を見てみると、自分が医師になった時にこのようなことができるのか不安に思っていたが、経験していくうちにできるようになるのかなと思えた。
- ・島根県枠で入学しているので、松江日赤の雰囲気を話してもらえたことが1番印象に残りました。当直では1年目から最初の対応をしなければならなかったり、症例が様々であったりで大変そうだと思いますが、やりがいもありそうだと思います。
- ・地域枠出身の方の実際の研修医状況が聞けてよかった。

- ・大きな病院にしかないような科に進んだとしても問題がないのはいいなと思った。
- ・バリバリ働きたいという気持ちをそのまま行動に移すことの出来る意識の高さ。
- ・先生のキャリアは非常に参考になりました。

◆ 大塚裕真先生のお話で、特に印象に残ったところをできるだけ詳しく教えてください。

<たすきがけプログラムの臨床研修での県外勤務、猶予期間での国内留学>

- ・国内留学をしてご自身の学びたいことを学べる環境に身を置き、その知識を鳥取に還元したいということをお話しされていて、国内留学に関心を持った。
- ・義務年限内での国内留学の大変さは個人で行うことが大変であったとのことだったので、やはりこれも相談が重要になると考える。
- ・大阪や北海道で勤務されているのが印象的だった。猶予期間を生かすことで県外でも経験を積めるというのがすごいと感じた。
- ・地域枠は将来、県内でキャリアを積むイメージがあったので、北海道へ国内留学されていることが印象に残った。
- ・国内留学制度を用いる事で自分の興味のある分野を広めていける事。
- ・たすきがけプログラムで、県外に行った実際の話聞いてとても参考になりました。
- ・たすきがけプログラムで、県外の病院に行ったとしても、県内の病院でこと足りるというのが、驚いた。

<家庭医という選択>

- ・総合診療医や家庭医になるかどうか迷っているので、とても興味深かったです。お話の中で、「大塚先生だから良かった。」と患者さんに言ってもらえるのが嬉しく、やりがいでもあると言われたことが特に印象に残った。将来は患者さんに近い存在でありたいと思っているので、臨床実習が始まった今だからこそ将来のあり方をもう一回考えてみようと思いました。
- ・私自身、家庭医が1番気になっているものだったので、具体的にどの様な進路を辿っているのか知ることができて良かったです。
- ・家庭医が1人いるだけで死亡率が下がるというお話が印象的でした。志望科はまだ決めておりませんが、総合医も魅力的だなと感じました。
- ・家庭医は大学病院勤務医よりも色々なことにチャレンジできる、自由に診療ができるということ。

<将来のキャリアを考えること>

- ・5年後のキャリアを考えるというお話が印象的でした。現在、カリキュラムにのっとりた学習に追われてしまうこともあり、主体的に今後の自分がどうなっていたいか、自分の原点となる思いを見失ってしまうことがあります。しかし、キャリアを考える上でも重要な自分自身の考えを都度都度みつめ、学生時代からその考えをもとに経験を積み、検討していきたいと改めて感じることができました。
- ・将来の自分がどうなっていたいかを考えて今を過ごすことで行動の原動力になりそうだと感じました。特に大阪と鳥取を両方経験された上で、鳥取で初期研修をしても良かったとおっしゃられていたことは、どこで学ぶかではなく何を学ぶかが大切なのだと感じました。
- ・入学時の考え方から現在の考え方への変遷をわかりやすく説明していただけたのが分かりやすかった。今考えているキャリアでなくとも、必ず良いキャリアを送ることができるという気持ちで前向きに考え

ることが重要だと感じさせられた。

<地域枠のキャリアに対する考え方>

- ・鳥取県で働くことに対して、もともと前向きであったが、さらに、鳥取県で医師として頑張らせてもらおう！！という気持ちになった。最後の方に、地域枠制度についてどう思うかという項目でお話しいただいたのが、地域枠の私たち学生が日頃思っている事であった。それが、地域枠から医師となった先輩の生の声として聴くことができ、説得力もあるし、有意義な情報であった。
- ・地域枠ということで、私自身はあまり気にしていないのですが、都市圏から来ている同期などにはいろんなこと言われた経験があるので、先生のお話を聞いて少し心が軽くなりました。
- ・病院選びも難しいであろう家庭医という仕事へのこだわり方から地域枠という制度があっても必ずしも将来の医師としての在り方が大きく制限されるわけではないことが感じられて印象に残った。
- ・悩みは相談するべきだということと、地域枠であることを後ろ向きに捉えるべきじゃないということが印象に残った。自分は地域枠だから将来の進路や職場が限られるということをあまり前向きに捉えてはいなかったが、その中でもできることはたくさんあると思うので色々やってみようと思った。
- ・地域枠に関しての考え方がとても現実的で、少し共感できる部分もあった。地域枠に関して相談できる場所があり、ある程度配慮をしてくださるという知識も得られた。
- ・地域枠でのキャリアは、思っているよりも良くなるという前向きなお言葉に将来への不安が少し解消されました。
- ・大学に入ってから、地域枠に対してとてもネガティブな感情がありましたが、お話を聴いて前向きな気持ちになりました。
- ・「地域枠ということで不安に感じることはない」旨の内容が印象に残りました。地域枠で将来どんなふうに働けるか不安を感じていたから。
- ・キャリアのことについて、大塚先生も同じような感想を抱かれていたところもあったとわかりました。卒後の研修は想像以上に色々なところに飛び回っているなど思い驚きました。

<その他>

- ・話の内容も有益だったが、大塚先生自体が楽しそうだったのが一番良かった。
- ・大学卒業後の具体的な流れや家庭医について詳しく知れたのがとても印象に残りました。

◆ 今後、話を聴いてみたい先輩がいれば教えてください。またその先生のどんなことについて話を聴きたいか教えてください。(具体的人物、診療科、職種、働き方など)

- ・特別養成枠の先生で研修医、専攻医、専門医それぞれにお話しを聞いてみたいです。また、特別養成枠から内科、特定診療科に進んだ先生それぞれのお話をお聞きしたいです。
- ・専門医をどのようなプログラムでどのような診療科を選んだかをなるべく多くの先生からききたい。アンケート方式でも十分。
- ・今回同様に、ほかの研修医、義務年限中の方のお話も聞きたいと思った。また、義務年限終了後の方がどのようなキャリアに進んだのかも聞いてみたいと考えた。
- ・地域枠かつ研究もしている方
- ・私自身、医師として働き始めてからのライフプランにおいてある程度の理想がある中で、現在病院に従

事されている女性医師の方のキャリア、働き方についてお話を聞く機会があればと思った。

- ・地域卒卒業生の方で猶予期間等に国外留学を経験された、または検討された方のお話を聞かせていただける機会があれば非常にありがたいです。
- ・島根県卒で鳥取大学に入学して、その後鳥取県に残った方や島根県に帰った方がどういうキャリアを積んでいくのかを聞いてみたいです。

※話を聴いてみたい診療科として、総合診療科、精神科、腫瘍内科、産婦人科、整形外科、外科、神経内科が挙げられていました。

◆ その他、ご質問・ご意見があればご自由にお書きください。

- ・地域医療支援センターと県医療政策課のアットホームな雰囲気がよく、安心して参加できました。
- ・自分と年齢が近い先生方の話を聞いて具体的なイメージが湧きました。
- ・貴重なお話ありがとうございました、本日の話を聞きますます貴学で勉学を勤しみたい想いが強くなりました。もしまたこのような機会がございましたら、メール等にて紹介して下さいますと幸いです。


第2回 地域卒学生向け

キャリア講演会


2023年2月24日(金) 18:00~19:00
オンラインZoom (申し込みの方にURL通知します)

講師

1 鳥取大学医学部附属病院 臨床研修医
細田 早郁 先生
地域卒(推薦入試) 卒後2年目



2 向陽台ファミリークリニック
大塚 裕真 先生
臨時養成卒(鳥取大学前期日程) 卒後6年目



申し込みはこちら↑

鳥取大学地域卒の先輩医師のお2人に、
ご自分のキャリアパスについて語っていただきます。
自分の卒業後のキャリアイメージを膨らませましょう。

問い合わせ先：鳥取県地域医療支援センター
TEL：0859-38-7005
mail：t-chiikicen@med.tottori-u.ac.jp